広島大学 WWL 事業　国際会議―活動成果を英語で発表

令和４年７月 28 日（日）、広島大学キャンパスにおいて、広島大学 WWL 事業の一環として、国際会議が実施されました。本校からは８名の生徒が参加し、活動成果を英語で発表しました。

国際会議では、新型コロナウィルス感染症によって平穏な日常生活を失い、苦しむ多くの方々に思いを寄せ、日本政府への提言を行いました。今年４月に参加者を募集し、５つの高校の 28 名が決定。その後約３ヶ月間、６つのグループに分かれて、議論を重ねました。グループのメンバーは、別々の高校に通う初対面の生徒同士。オンラインでの話し合いで最初は少し緊張したものの、１泊２日の研究合宿ですぐに打ち解け、よい雰囲気の中で提言を完成させることができました。

研究合宿の様子（7 月 9 日(土)～7 月 10 日(日) 広島大学附属福山中･高等学校で実施）

国際会議の当日、午前の部では、昨年度 IDEC-IGS 連携プログラムに参加した２年生３名が「交通」、「教育」をテーマに、他の連携校の生徒とグループ研究を行った成果を発表しました。

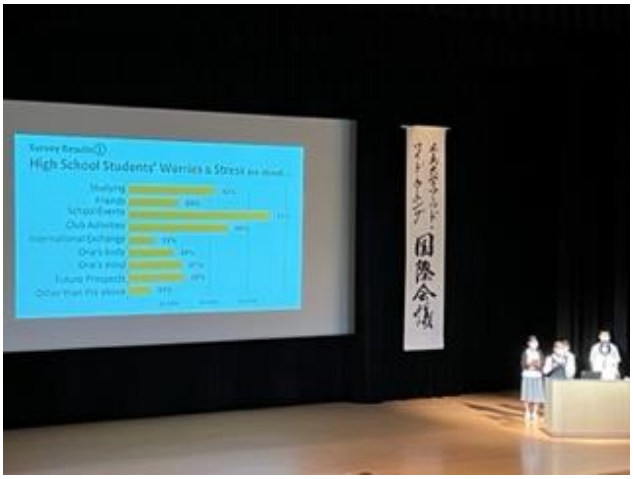
【左写真】 発表題目：“How to make Japanese high school students more proactive in learning”（「日本の高校生がより主体的に学習できるようにする方法」）発表の様子

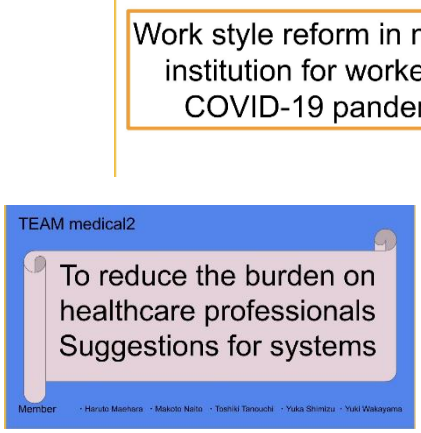
【右写真】 発表題目：“Our familiar traffic problems and MaaS※”（「私たちの身近な交通問題とマース」）発表後の質疑応答の様子

※MaaS（マース：Mobility as a Service）とは、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスです。（国土交通省のホームページより）

午後からは、メインイベントである国際会議が開会。第１部では、「コロナウィルス感染症対策に関する日本政府に向けての提言」と題し、６つのグループが「観光」、「医療」、「教育」のそれぞれの立場から、日本政府に対し政策提言を行いました。

その後、第２部では、アフリカやインドネシア等の国々出身の広島大学大学院留学生と発表者とのディスカッションが行われました。





国際会議は大成功のうちに幕を閉じました。英語を用いた発表・交流をはじめ、社会の問題について当事者の立場になって考え、解決策を見いだそうと議論する経験や、学校の枠を越えた協働学習など、WWL ならではの高度な学びに挑戦することで、大きな達成感を味わうことができました。